

私のシニア派遣体験記（継続中）～アメリカ地方都市・シンシナティより感謝を込めて～
シニア派遣 足達 滋
（令和元年度派遣 アメリカ合衆国 シンシナティ補習授業校）

1. はじめに

平成30年12月7日。「平成31年度アメリカ合衆国シンシナティ補習授業校への校長派遣内定通知」が届く。応募を決めた時も、面接を受けた時も、通知が届いた時も不安ばかりだった。それをたくさんの方に支えていただき、何とかシニア派遣教員として現在勤務ができています。皆さんに感謝しながら、初めての体験を中心に報告する。

2. シニア派遣への道

3月、シニア派遣の経験がある先輩先生から情報を収集。アドバイスを受け4月の全海研シニア派遣研修会に参加。5月全海研経由で文科省に応募書類送付。全海研を通さず直接応募する方法もある。書類審査通過後7月東京で文科省面接。その後結果を待つ。

12月に前述の内定通知。運良く前回派遣校での同僚先輩先生がアメリカに赴任中で直ぐに相談をして様々なアドバイスと励ましを受けた。1月、代々木で文科省派遣前研修。前回派遣が代替繰上げ派遣で派遣前宿泊研修は初体験。たいへん緊張したが、同部屋の方のおかげで快適に過ごせた。同じ山口県からアメリカに派遣される先生もおられ、たいへん助けられた。また、校長でありながら1週間も学校を空けるのは心苦しかったが、派遣経験のある教頭先生だったため色々サポートしてもらった。他の先生方にも大変お世話になった。2月には国際教育研究会でも心強い励ましの言葉をいただいた。

3月に最終派遣決定通知。3月末ビザ申請のため東京アメリカ大使館へ。赴任準備と退職準備で現役最後の学期はバタバタだった。4月3日宇部空港出発。4日文科省辞令交付式。5日朝成田発で出国。同日夕刻シカゴ経由でシンシナティに到着した（時差13時間）。翌6日。いよいよシンシナティでのシニア派遣生活が始まった。

3. シンシナティ補習授業校

元々現地に住む日本人の方が中心となって設立され、現在は日本人駐在員もしくは国際結婚して現地に住んでいる日本人の子どもたちのために、日本の学習指導要領による授業を行う保護者立の私立学校である。経営の中心は現地日系企業から選ばれた方からなる保護者中心の理事会で、すべてボランティアで活動されている。

自前の校舎はなく、ノーザンケンタッキー大学という大学の一部を借りて授業を行っており、幼稚園年中から高校3年生まで約250人の子どもたちが、平日は現地の学校へ通いながら、土曜日に5～6時間、国語、算数（数学）社会を学んでいる。

先生方は自分以外こちらに暮らしている日本人で、必要最小限の人数しかいない。年間授業日は43日。夏休みが7月に3週間、冬休み、春休みもある。行事も日本国内と同じように、運動会、校外学習、修学旅行、学習発表会



（2019 運動会の様子）

等けっこうあるが、殆どの行事は理事の担当が主導、教員は子どもの管理や授業に集中できる。理事会、保護者、教職員、子供たちが一体となった正にコミュニティスクールと言える。



（補習校事務室入口）

4. オハイオ・ケンタッキー州でのアメリカ生活

シンシナティはアメリカ五大湖の南、オハイオ州の南端、ケンタッキー州との州境にある人口約30万の地方都市である。中心（ダウンタウン）にはアメフトベンガルズ、大リーグレッズの球場がオハイオ川に面してあり、ヒルトン等の老舗ホテル



(ダウンタウンへ)



(シンシナティベンガルズ)



(シンシナティレッズ)



(こんな物も売っている!?)

もある。大都市の華やかさはないが、昔ながらの地方都市という風情はある。治安は比較的良いがダウンタウンでは時々事件が起こる。銃を見たことはない。

生活については買い物楽しい。スーパーがやたらでかく通路も広い。各パックの量が半端ない。日本と同じ野菜や肉類等豊富な食材、スタバ等のカウンター、文房具から簡単な電気製品、薬局や救急処置室もある。アジアコーナーもある。日本の食材は多国籍マーケットや中華系のスーパー、日本人経営の小売店で購入できる。車で2時間の州都まで行くと日本人向けスーパーもある。

住について私はアパート住まい。トラブルはあるが言えば対応してくれるので不便はない。近くにはお城のような豪邸もある。貧富の差があり、町の中心にあるアパートは治安があまりよくないようだ。



(新聞は門前投げ)

医療事情は日本と大きく違う。受診には必ず予約が必要。風邪程度なら病院ではなくアーjentケアという看護師が診察するオフィスへ行く。大病院が近くにあるが、医師はその施設を借りて診療を行っているだけで、請求が別々に来る。料金は高額で保険に入っていないと大変。(保険はすべて任意保険) 例えば救急病院を利用すると1回約15万かかる。救急車も有料だ。

交通事情は、大都市なら電車が走っていたりするが当地はバスのみ。車がないと厳しい。私の住むケンタッキー州は実技と学科試験にパスすればその日のうちに免許が取得できる。教習所などはないのでたいへん怖い。高速道路は無料。左ハンドルは慣れたが、周りがビュンビュン飛ばすのには全然慣れない。タクシーはほとんど見かけずUberが中心である。



(バス停?)

英語は聞き取りが難しい。無料の地域英語講座 (ESL) に参加しているが、他国の人は文法や読みは苦手だがやたらしゃべる。いつも何で?と思う。

アメリカはとにかく BMW (BIG・MANY・WIDE) である。何でも大きく数が多く広い。人々はフレンドリーで「ハ〜イ」と私でも挨拶できる。言いたいことを言い失敗は認めない (気がする)。今年は大統領選挙という特別な行事?もあつたが、まだまだ知らない事ばかりで、もっと多くの体験をしたいと思っていたのだが…。

5. 終わりに

2020年3月。すべての活動が止まってしまった。まさかこんな初体験があるとは思ってもしなかった。2021年1月現在、学校は年度内登校せず、今後も未定である。私生活も外出は買い物と散歩がほとんど。遠出はできない。あと1年任期があるが先は全く不透明である。ただ、こんな状態でもたくさんの方とのつながりで何とか仕事も生活もできている。来年の帰国まで感謝の思いを忘れず、できることを頑張りたい。